

講座名	ころなかのすうえーでんからみえてくるにほんのかだい				
	コロナ禍のスウェーデンからみえてくる日本の課題				
主担当 講師	あねは あき		経済学部 商学科 教授		
	姉齒 暁				
概要	世界中を席卷したCOVID-19はスウェーデンでも甚大な被害をもたらしました。感染者数の急増、高齢者の大量感染死、その一方でマスクなし、ロックダウンなしで過ごすスウェーデンのコロナ対策は欧米はもちろん日本でも話題になりました。ちょうどその時期にスウェーデンのルンドという大学街で暮らした経験を踏まえ、前半はスウェーデンに対して寄せられた批判と、その中にある事実と誤解、そしてスウェーデンのパンデミックから人々を守ったものと命を危険に晒したものについて、後半では福祉政策や男女平等政策や労働のありかた、報道の自由や政府機関の自立性など、日本にとっての課題の数々をスウェーデンの事例から逆に読み解きたいと思います。				
回数	全 4 回	受講料	4,000 円	配信 期間	1月
講座 レベル	入門	定員	800 名	講座 形式	オンデマンド形式
第1回	タイトル	コロナ禍のスウェーデン：コロナ対策と人々の生活			
	担当講師	姉齒 暁 (経済学部 商学科 教授)			
	内容	世界中がCOVID-19の広がりによって翻弄される中、スウェーデンはマスクなし、ロックダウンなしという政策をとりました。スウェーデンのコロナ対策とはどのようなものだったのか、日本との比較を交えて、スウェーデンのコロナ対策に関する噂を検証していきます。			
	配信期間	1月 14日 (土) ~ 1月 27日 (金)			
第2回	タイトル	スウェーデンの福祉政策・労働運動と新自由主義の影響			
	担当講師	姉齒 暁 (経済学部 商学科 教授)			
	内容	コロナ禍のスウェーデンで人々の生活を守ったものはやはり「福祉大国」の看板政策でした。その一方で「守ることができなかった」人々を数多く出してしまったスウェーデンの福祉政策の後退もコロナ禍で露呈されました。現在に至るスウェーデンの歴史的変化と日本との共通点を見ていきたいと思います。			
	配信期間	1月 21日 (土) ~ 2月 3日 (金)			
第3回	タイトル	スウェーデンから日本のジェンダー平等を考える			
	担当講師	姉齒 暁 (経済学部 商学科 教授)			
	内容	コロナ禍の日本では、社会的弱者、とりわけ女性たちに、より大きな負荷がかかっていることが問題になりました。スウェーデンでも家庭内暴力や所得格差、職域の偏りや貧困の問題が存在しています。こういった問題にスウェーデンはどのように取り組んできたのか、そこから学べることは何かを考えていきます。			
	配信期間	1月 28日 (土) ~ 2月 10日 (金)			
第4回	タイトル	非同盟中立国スウェーデンのNATO加盟問題から見えるスウェーデンの真の姿			
	担当講師	姉齒 暁 (経済学部 商学科 教授)			
	内容	コロナとの共生の次のフェーズ（段階）に入ったスウェーデンですが、目下の問題はロシアのウクライナ侵攻と自国の NATO加盟問題です。実はそれ以前からロシアの脅威が高まっているとして男女共に徴兵制を再導入する（女性は初めて）という決定をおこなっています。平和に見えるスウェーデンの真の姿を読み解いていきます。			
	配信期間	2月 4日 (土) ~ 2月 17日 (金)			
参考文献	アズビョン・ヴォール著、渡辺雅男訳『福祉国家の興亡』こぶしフォーラム、こぶし書房、2013年、 岡沢憲美『スウェーデンの政治 実験国家の合意形成型政治』東京大学出版会、2009年、 岡沢憲美『スウェーデンの挑戦』岩波書店、1991年、 二文字理明・伊藤正純編著『スウェーデンにみる個性重視社会』桜井書店、2002年、 早川タダノ『まぼろしの「日本的家族」』青弓社、2018年				
受講にあたっての留意点	スウェーデンのNATO加盟問題にせよ、コロナの問題にせよ、刻々と事態は変化していくことが考えられます。収録の時点で最も新しい情報を取り入れお伝えしてきたいと思います。				